

編修趣意書（教育基本法との対照表）

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-22	中学校	国語科	書写	1-3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	書写・733	現代の書写一・二・三		

1. 編修の趣旨及び留意点

「考える書写」

「考える書写」。それがこの教科書の編修をとおして実現することをめざした書写学習のあり方です。書写技能を単純に習得することをもってよしとするのではなく、なぜその技能が自分の文字を向上させることにつながるのかを考える。また、習得した技能を別の場面で活用することができないかを考える。さらには、読み手がどう受け止めるかを想像し、目的や読み手に適した効果的な書き方について考える。この教科書で学ぶことをとおしてそのような学習態度、書字態度が身につくことを重視しました。そのことによってはじめて、「生きる力」を支える確かな書写の学力が育まれると考えたからです。

2. 編修の基本方針

教育基本法第二条に示されている五つの目標のなかで、書写指導は、〈幅広い知識と教養（第一号）〉を身につけ、〈伝統と文化を尊重（第五号）〉し、〈職業及び生活との関連を重視（第二号）〉する態度を育むことと強く関わるものです。また、教材の具体的な内容をとおして、〈豊かな情操と道徳心（第一号）〉、〈個人の価値を尊重（第二号）〉する態度、〈自他の敬愛と協力を重んずる（第三号）〉態度、〈生命〉や〈自然〉を大切にすることができると考えられます。これらのことをふまえて、統合的な書写技能運用能力を育成するために、以下の五つを基本方針としてこの教科書を編修しました。

- ①基礎・基本の確実な習得
- ②伝統文化としての書字の捉え
- ③生徒がふだん書く文字の向上
- ④読み手に効果的に伝える力の習得
- ⑤豊かな情操の育成

A. 構成上の工夫

①基礎・基本の確実な習得

(1) 巻頭 -「学ぶ態度」を明示-

巻頭（p.2）に「自分の文字や書き方をよりよくするために」というページを設けました。

ふだん書く文字がより読みやすくなることと、相手や目的・場面を考えて書く習慣を身につけることが、書写学習の目標であることを明確に示し、生徒が「学ぶ態度」を定められるように工夫しました。

(2) 3年間で1冊に -学びの見通しと振り返りを可能に-

3年間の書写学習を見通し、適宜振り返りながらの学習を可能にすることで、基礎的・基本的な書写技能をより確実に習得できます。

(3) 単元構成 -系統的な学習を実現-

3年間の書写学習を系統立てて10の単元に分けました。

各単元には、習得する技能を焦点化した教材が順を追って配列しており、一歩ずつ確実に学習を進めていくことができます。

<p>(4) 紙面構成 -学習の流れが見える-</p>	<p>学習のねらいをおさえ、「何をどう学ぶのか」を見通して授業に臨むことができるよう、教材を以下のように構成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいをタイトルに示しました。 ・見開きで学習の流れを見渡せるよう、活動の構成とデザインに配慮しました。
<p>(5) 分量 -無理のない学習-</p>	<p>各学年の年間配当時数で無理なく学習を進められるよう、課題の量や活動の規模に配慮しました。</p>
<p>(6) 資料編 -生涯にわたるサポート-</p>	<p>生涯にわたる書字をサポートするページとして、巻末に資料編を設け、日常的な書式や漢字表（手書き）などをまとめて示しました。</p>

B. 内容上の工夫

①基礎・基本の確実な習得

●**学習意欲の喚起** 基礎・基本の確実な習得のために欠かせないものは、生徒の「学ぼう」とする意欲です。意欲をもたせるためには、まず学習のめあてをしっかりとつかまえさせることが必要です。各教材には「点画の組み立て方を確かめよう」のように、めあてがはっきり捉えられるタイトルをつけています。また、教材の冒頭の「考えよう・話し合おう」にめあてについての問いを設け、自ら考えることから学習に入っていくように工夫しました。より主体的な授業への参加を促したものです。

●**基礎・基本に迫る問い** 例えば教材「文字の整え方を確かめよう」では、冒頭に「考えよう・話し合おう」というステップを置き、「整った読みやすい文字を書くためには、何に気をつけるとよいでしょうか。」と問いかけています。指導事項としての「文字の整い」を教わって練習するのではなく、「整った読みやすい文字を書くため」に大切なことを生徒自身が考え、発見することで、基礎・基本の確実な習得ができるように工夫しました。

●**学び方を学ぶ** 学習の流れを標準化しました。「学習の見通しをもつ。→学習する。(考えよう・話し合おう→書いて確かめよう→振り返ろう)→復習する。→学習を生かして主体的に書く。」という学習の流れを繰り返すことにより、生徒が書写の学び方を身につけることができるよう工夫しました。

②伝統文化としての書字の捉え

●**手書き文字の魅力** 毛筆字形例は、学習の流れに沿うように教材の見開きの左ページに掲載しました。その際、文字の魅力・迫力が表現されるようデザインに配慮しました。また、平仮名をいろは歌で示したページや、行書で歌詞を示したページは、手書き文字の魅力が引き立つようデザインを工夫しました。その他、手書きの良さが生きるさまざまな言語活動を取り上げています。巻末には、古今東西で手書きの良さが意識されていたことに気づかせるコラムを設定しました。

●**毛筆の良さを生かす** 毛筆は、一つ一つの点画の始筆・送筆・終筆をしっかり意識して書くことができます。また、毛筆の文字は線の面積の変化や毛先の変化を目で確認しやすいので、書かれた文字を見て研究する際に有効です。このような毛筆の良さを生かして毛筆教材でしっかり学習することが、硬筆による生徒のふだんの文字の向上に結びつくように、教材の編成を工夫しました。

●**伝統的な言語文化** 古典の書や詩歌を適宜紹介するとともに、毛筆用具の製法なども取り上げ、伝統的な文字文化の現代へのつながりに触れることができるように工夫しました。

●**書字文化への着目** 書き初め教材では、書写技能の活用場として既習事項との関連を図るだけでなく、書字文化としての意義についても触れるようにしました。また年賀状など、さまざまな書字文化に興味・関心をもたせる工夫もしています。

③生徒がふだん書く文字の向上

●**硬筆による技能の定着** 各単元に1～2教材設けた「学習のまとめ」では、そこまでに学習した書写技能を取り上げ、技能ごとにグループ分けして課題を設定するなどして、その技能をさまざまな硬筆文字に展開できるようにしました。さらに、字形例（手本）を見ないで書く活動も適宜設け、自力で書くことを習慣づけるよう配慮しました。その際、字形例は、同じ見開き内で書き込み欄から少し離れた場所に掲載し、学習したことを生かして書き、書いた後すぐに確かめられるように工夫しました。

●**ふだんの文字への転化** 「学習のまとめ」では、他教科のノートなどを想定した日常的な語や文章を書く課題を設定し、自分のふだんの書字場面をイメージしながら書けるような工夫もしています。基礎・基本の学習を終えた第二学年後半からは、硬筆字形例はできるだけ日常的な書式で例示するように配慮しました。

④読み手に効果的に伝える力の習得

●**目的や相手を意識する** 文字を書くことをコミュニケーションの重要な手段として位置づけ、手紙や掲示物などを書く活動を設定して、目的や読み手を意識して書く習慣をつけるように配慮しました。第二学年後半からは、書体の選択に留意して書くことも意識できるようにしています。

●**生活に生かす** 「生活に生かそう」の単元を、技能習得の単元の間を設定しました。「行事の目標を書こう」「本を紹介しよう」「手紙を書こう」「座右の銘を書こう」「卒業記念冊子を作ろう」のいずれの単元も、目的と読み手を意識して書く力を身につけることのできる言語活動になっています。生徒が見通しをもって活動できるよう、手順を示すとともに、具体的な作品例やワークシート例を掲載しました。

⑤豊かな情操の育成

●**題材の厳選** 書写の技能は、学校や家庭、社会での他者との豊かなつながりの中で生かされるべきものです。そのことをふまえ、教材の中で取り上げる毛筆や硬筆による題材は、書写の学習事項を確実に習得できる要素を含んだ文字であることに加えて、生徒の心を豊かにすることばを取り上げるように配慮しました。

3. 対照表

(次ページをご覧ください)

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

漢字表 (p. 93-108) / 平仮名五十音 (p. 18-21, 54-55)	・常用漢字（小学校配当漢字含む）全ての楷書と行書の手書き字形例を示した。 ・平仮名と片仮名についても、楷書に調和する手書き字形例、行書に調和する手書き字形例を全て示した。 上記二つの資料により、生活の中で書く必要がある文字について、楷書・行書の双方の拠り所を生徒が手にすることになる。（社会において自立的に生きる基礎を培【教育基本法第五条第二号】うことにつながるものであり、また、〈生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養う【学校教育法第二十一条第五項】）ことを実現するものである。
扉 (p. 7, 43, 69)	・各学年の扉ページの背景には、さまざまな手漉き和紙を使った。 和紙には、我が国の長い歴史の中で培われた独特の美意識、「和」の意匠が凝縮して現れている。（伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する）態度の育成につながることを願って掲載した。【教育基本法第二条第五号及び学校教育法第二十一条第三項】
キャラクター	・キャラクターとして男女の中学生、大人、鳥を設定した。 〈男女の平等〉、〈他者の敬愛と協力〉、〈生命を尊ぶ〉態度を育むよう配慮した。【教育基本法第二条第三号／第四号】
教科書用紙	用紙は、硬筆のどの筆記具にも対応でき、かつ環境に配慮したものを使用している。
印刷	印刷は鮮明さを重視し、インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用している。 紙面全体は学習に集中できるよう色使いを工夫し、色覚特性にも配慮している。

3. 対照表

*最左列の数字は連番です。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色 * < >内は教育基本法からの引用です。	該当箇所 (ページ)
第一学年		
巻頭		
1	本教科書は、生徒の<個人の価値を尊重して、その能力を伸ば>すことを重視して編集した。 巻頭に、3人の生徒が書いた文字を示している。3人の字はそれぞれ異なるが、各人が学習のねらいを明確に理解し、自分の文字の課題を把握したうえで学習することで、自らの書く力を高めている様子を表している。規範に完全に合致することを求めるのではなく、「自分の文字や書き方をよりよく」することを生徒が意識できるように工夫している。【第二号】	2-3
2	望ましい姿勢と執筆のあり方を、写真を用いてわかりやすく示している。体への負担が少ない状態で文字を書く行為(書字)を行うことができるよう配慮している。【第一号<健やかな身体>】	4-6
1 楷書で書こう		
3	「楷書」の技能の基礎・基本を確実に習得できるようにすることを意図して、次のように本単元を構成した。 a)1教材1技能を原則として、教材名に学習のめあてを明示した。 b)教材冒頭の「考えよう・話し合おう」により、学習のめあてがなぜ大切なのかを考え、自分なりの課題意識をもって学習に臨むことができるようにした。 c)「学習のまとめ」では、それまでに学習した事柄を整理することで、技能の定着を図った。 d)コラムのテーマや「学習のまとめ」の課題では、筆順の意義、算用数字やアルファベットの書き方、許容の書き方、平仮名の発生、理科のノートなど、学校生活や社会生活に生きる幅広い知識と教養の獲得につながる内容を用いた。 【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求めめる態度>/第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし>】	a)8-23,b)8,10,12,18,22,c)14-15,24-25,d)15,16,17,20,25
4	字形例(手本)を見ないで書く活動を設け、生徒が自分の文字と向き合うことができるよう工夫した。【第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし>】	10,12,18,19,24
5	教材として提示することばには、「泉」「春光」「若枝」「風月」「新緑」「おはよう」「ありがとう」「友達の輪を広げる」「目には青葉～」「夏めく空」など、他者とのコミュニケーションを尊ぶものや、我が国の四季を味わい生命を尊ぶ<豊かな情操>を育むものを多く用いた。【第三号<公共の精神>/第四号<生命を尊び、自然を大切に>/第一号】	8,11,13,16,17,19,22,23
6	教材として提示する文や文章には、国語科の学習に資すること<伝統と文化を尊重>する態度を育むことをねらいとして、国語科第一学年で広く学習されている古典『竹取物語』を視写する課題を設けた。【第五号/第一号<幅広い知識と教養>】	24
7	仮名の学習においては、わが国の<伝統と文化を尊重>する態度を育むため、1)平仮名を「いろは歌」で示す、2)字源を示す、3)デザインとして仮名料紙を背景に使用するなど工夫した。【第五号】	20-21
8	国際化する現代社会に対応する資質を養うため、アルファベットの大文字と小文字の手書き例を掲載した。【第五号<他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与>】	25
2 生活に生かそう -行事の目標を書こう-		
9	書字活動の場面として、学校行事である球技大会を例示し、学校での<生活との関連>を図った。【第二号/第一号<健やかな身体>】	26-27
10	活動の過程では、 ・ワークシート例を示し、活動の目的である掲示物だけでなく、その過程で書くものにも書写の学びを生かせることに気づくよう工夫した。 ・読む人にとって読みやすいかどうかを考えさせ、読み手を意識して書くことが習慣化するよう工夫した。 【第二号<生活との関連>/第三号<自他の敬愛>】	
11	作品例には、バレーボールチームの掲示物を挙げ、<責任>や<自他の敬愛と協力>を大切にすることを養うよう工夫した。【第三号】	
新しい書体との出会い		
12	行書を使って硬筆で書かれた詩を示している。若い人たちの支持を得ているグループの楽曲の歌詞から、<個人の価値>、<生命を尊ぶ>内容の部分に掲載した。躍動感を感じ取ることができる歌詞であり、行書の特徴であるリズムやスピード感を生徒自らが感じ取ること、行書への興味関心を高めることができるように工夫した。【第二号/第四号/第一号<豊かな情操>】	28-29
3 行書で書こう		
13	「行書」技能の基礎・基本を確実に習得できるようにすることを意図して、連番3,4と同様の工夫を施した。 なお、連番3のd)では、文化という観点で年賀状と書き初めについて触れ、<伝統と文化>を尊重する態度を養うよう工夫した。【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求めめる態度>/第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし>/第五号】	a)30-39,b)30,32,36,c)38,d)31,39
14	「学習のまとめ」では、行書で書かれた全教科名を視写する課題を用意し、学校での<生活との関連>を図った。【第二号】	38
4 生活に生かそう -本を紹介しよう-		
15	書字活動の場面として読書活動を取り上げ、学校での<生活との関連>を図った。【第二号】	40-41
16	お気に入りの本を紹介する活動を設定することで、自身の読書を振り返り、また、友達の読書活動への興味関心をもつよう工夫した。【第一号<幅広い知識と教養>】	
17	活動の過程では、単元においても連番10と同様の工夫を施した。【第二号<生活との関連>/第三号<自他の敬愛>】	
18	作品例には、古典・物語・数学入門書など多様な書籍を示した。主な例として『竹取物語』を取り上げ、国語科で読んだ作品を違う角度から捉えなおすことによる学力・思考の深化も企図している。【第五号<伝統と文化>/第一号<幅広い知識と教養>】	
書いたもので交流しよう		
19	書写の授業で書いたものについて、友達と交流する活動を提示している。友達が書いたものからも学ぶ姿勢が身につくよう工夫した。さらに、交流を経て得た新たな気づきがないか問いかけることで、協力することの価値を示している。【第三号<自他の敬愛と協力>】	42
第二学年		
5 行書を使いこなそう		
20	「行書」技能の基礎・基本を確実に習得し、活用できるようにすることを意図して、連番3,4と同様の工夫を施した。【第一号<幅広い知識と教養を身に付け、真理を求めめる態度>/第二号<個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし>】	a)44-59,b)44,48,52,56,c)50-51,58-59,d)59

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色 (〈〉内は教育基本法からの引用です。)	該当箇所 (ページ)
21	教材として提示することばには、「再会」「雪花」「空に吸はれし十五の心」「自然を楽しむ」「林の中へ入って～」など、〈自他の敬愛〉や〈自然を大切に〉にする感性を育むものを用いるとともに、行書の美しさ、行書に調和する仮名の美しさをことばの意味とともに感じ取る〈豊かな情操〉を育むよう工夫した。【第三号／第四号／第一号】	45,49,52,56,58
22	教材として提示する文や文章には、国語科の学習に資する文章と、〈正義と責任〉について考えるきっかけを与えることをねらいとした、やなせたかしのことばを用いた。【第三号／第一号〈幅広い知識と教養〉】	52,56,58-59
23	仮名の学習においては、わが国の〈伝統と文化を尊重〉する態度を育むため、1)字源を、イラストを用いてわかりやすく示す、2)仮名の書における伝統的な手法である「連綿」の理解への足がかりとなるコラムを示す、など工夫した。【第五号】	54-55,59
6 生活に生かそう -手紙を書こう-		
24	職場体験学習の依頼状と礼状を教材化し、〈職業及び生活との関連〉を図った。職場体験学習でお世話になる方に依頼状やお礼状を書くことで、社会が人と人との信頼関係で成り立っていることに気づき、〈責任〉や〈協力を重んずる〉態度を培えるよう工夫している。【第二号／第三号】	60-61,78-81
25	活動の過程では、 ・「資料編」を用いて手紙の構成を扱い、社会の一員としての〈教養〉を身につけられるよう工夫した。 ・読む人に気持ちが届くかどうかを考えさせ、読み手を意識して書くことが習慣化するよう工夫した。 【第三号〈自他の敬愛〉〈主体的に社会の形成に参画〉／第一号】	60-61,78-79
26	「時候の挨拶」を手書き文字で掲載し、我が国の〈自然を大切に〉思う〈豊かな情操〉を育むよう工夫した。【第四号／第一号】	80-81
7 書体を使い分けよう		
27	楷書と行書の使い分けには絶対的なきまりがない場合が多い。本単元では、自分ならどちらの書体を選択するかを考え友達と話し合うことで、答えを求めめるのではなく自分の考えをしっかりと持ち書く姿勢を育むよう工夫した。また、書字場面の例には「職場体験学習」「学校のテスト」「友達へのメモ」「立て看板」など、読み手・目的にバリエーションをもたせ、書字にはさまざまな目的・読み手があることに気づくよう工夫した。【第二号〈個人の価値を尊重〉〈自主及び自律の精神〉／第三号〈社会の形成に参画〉】	62-64
28	「学習のまとめ」では、学校や家の周りで楷書や行書で書かれたものを見つけてくる活動を設定している。文字を書くことは、多く「誰かに何かを発信する」ことだと気づき、また、文部省唱歌の歌碑や校内の整備に携わった人への感謝状、短歌の色紙などを例示して、そのあり方のバリエーションの豊富さに気づくよう工夫した。【第三号〈自他の敬愛〉〈社会の形成に参画〉】	65
8 生活に生かそう -座右の銘を書こう-		
29	座右の銘とすることばを選定し、書体や配列を自分で決める活動をとおして、自ら考えて書くことが習慣化するよう工夫した。【第二号〈自主及び自律の精神〉】	66-67
30	作品例には、〈自主及び自律の精神〉〈自他の敬愛〉を育むものを多く用いた。また、消しゴム印の作り方を紹介するコラムを設け、「篆刻」への興味の糸口となるよう工夫した。【第二号／第三号／第五号〈伝統と文化を尊重〉】	
書の名手たち〔発展〕		
31	発展教材として、書かれた文字そのものの美しさを鑑賞する、長い文化の歴史の一端に触れられるようにしている。「文字の美」のありようが国境を越えたものであることに気づくよう工夫した。【第五号〈伝統と文化を尊重し〉〈他国を尊重〉】	68
第三学年		
9 効果的に書こう		
32	単元名にもある「効果的に書く」ことは、自分の目的と読み手の受け止め方を意識して書くことである。自ら考え、読み手を意識して書く姿勢が習慣化するよう工夫した。【第三号〈自他の敬愛〉〈主体的に社会の形成に参画〉／第二号〈自主及び自律の精神〉】	70-71
33	身のまわりの文字に関心をもつことで、〈伝統と文化〉としての文字が現代に息づいていることに気づくよう工夫した。【第五号】	
34	教材としては、以下のものを取り上げている。 ・富士山(世界文化遺産)／『火の鳥』(日本が世界に誇るマンガ文化を代表する作品)／書作品／短冊など、我が国の〈伝統と文化〉に触れられるよう配慮したもの。 ・聞き書きメモ(オランダで生活していた生徒の発表をメモ)／電子メール／ポスター(環境の保全を訴えるもの)など、国際化が進み、環境問題が身近なものとなっている生徒の日常をふまえたもの。 【第五号〈我が国と郷土を愛する〉〈他国を尊重〉〈国際社会の平和と発展に寄与〉／第四号〈環境の保全〉】	
35	校内合唱コンクールのポスター、めくり、プログラム、案内状などを作成する活動を例に、主体的に活動に参加することの重要性に気づくことができるよう工夫した。【第三号〈主体的に社会の形成に参画〉〈自他の敬愛と協力〉】	72-73
10 生活に生かそう -卒業記念冊子を作ろう-		
36	中学校の卒業期に、自分の思いを表すことばを書き、また友達が書いたものを読む活動をとおして、〈個人の価値を尊重〉する人間性の育成を企図した。【第二号】	74-75
37	作品例には、「仲間」の大切さに気づいたもの、未来に勇気をもって踏み出そうとしているものを中心に掲載している。【第三号〈自他の敬愛と協力〉〈主体的に社会の形成に参画〉】	
書き初め		
38	第一～三学年にわたって書き初めを教材化し、〈伝統と文化〉の継承を目指した。【第五号】	85-88,
39	書き初めの課題は、「輝く生命」「日進月歩」「燃ゆる思い」「大望を抱く」「温故知新」「平和の鐘」「旅立ちの時」「山光澄我心」「雨垂れ石をうがっ」など、〈自主及び自律〉〈自他の敬愛〉の精神、〈生命を尊ぶ〉〈自然を大切に〉する態度、〈国際社会の平和〉に寄与する態度の涵養につながるものを用いた。【第二号／第三号／第四号／第五号】	109-112,113-116
資料編		
40	「日常の書式」では、便箋と封筒の書き方・時候の挨拶、荷物の送り状・のし袋・願書の書き方、掲示物の書き方、ノート・原稿用紙の書き方などを例示し、〈職業及び生活との関連〉を図り、生徒にとって生涯参考になるページとなるよう工夫した。【第二号】	78-84
41	「文字の変遷・文房四宝」では、漢字の成り立ちや古代中国での漢字の誕生とその後の変遷を、図版を豊富に用いて掲載した。また、毛筆の用具が作られる工程と、進化し続ける筆記具をあわせて掲載し、伝統や文化を育んできた人々を敬愛するとともに、文字文化の未来の担い手という自覚をもつようにと企図した。【第五号〈伝統と文化〉〈他国を尊重〉】	89-92
自分の文字		
42	兼好法師とステューブ・ジョブズの、文字に関することばを引用した。卒業後も自分らしい豊かな文字生活を前向きに展開していく姿勢をもつよう工夫した。【第二号〈個人の価値を尊重〉〈能力を伸ばし、創造性を培い〉／第五号〈伝統と文化〉〈他国を尊重〉】	表 3

編修趣意書 (学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-22	中学校	国語科	書写	1-3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	書写・733	現代の書写一・二・三		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

「国語科書写」

中学校学習指導要領において書写が国語科の中に位置づけられていることを受け止め、書写に関する知識・技能が、話す・聞く・書く・読むといった言語活動に役立つようにするために、「考える書写」というコンセプトのもとに編修にあたりました。

①学習指導要領に示された書写に関する事項についての学習が、適確かつ効果的に行われ、文字を正しく整えて速く書く力を身につけられるようにすることに意を用いました。

生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにすることと、生徒が自ら考え自ら学ぶことをとおして基礎・基本に迫れるようにすることを重視して、教材を構成しました。特に、生徒が中学校で初めて学ぶ「行書」については、興味・関心をもって学習に取り組み、その書き方を無理なく身につけられるように十分な配慮をしました。

②身につけた書写の力を、学習や生活の場で役立てようとする態度を養うことに意を用いました。

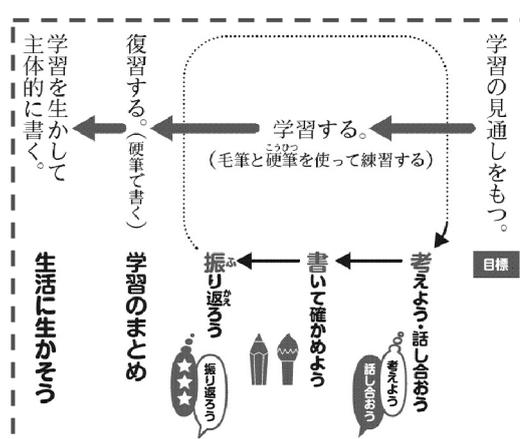
さまざまな書く場面を設定して、目的や相手に応じて適切な書き方を考える態度が育つように、内容を工夫しました。その中で、毛筆による学習を硬筆に生かすことや、楷書と行書を使い分けること、効果的に書くことについて、主体的と考えられるように工夫しています。

この教科書で実現しようとする「考える書写」という学習のあり方は、必ずや、学習指導要領の「総則」に示された思考力・判断力・表現力その他の能力を育むことにつながるものと確信しています。

A. 構成上の特色 * 〈 〉内は学習指導要領の「総則」及び「国語科の目標」からの引用です。

(1) 見通しのきく学習

- 全体を、以下のような構成にしました。
- 「どのような活動をとおして何を身につけるのか」を生徒が了解したうえで〈主体的に学習に取り組む〉ことができます。
- ・3年間を1冊にまとめました。3年間の書写学習を〈見通す〉ことができ、また適宜〈振り返り〉ながら学習することが可能です。
 - ・3年間に10の単元があります。単元の標準構成は、右の図のように見通しをもった学習を重視したものになっています。
 - ・各単元を構成する教材は、教材タイトルに学習のねらいを明示しています。また、学習の流れが見開きで見渡せる紙面構成になるよう配慮しました。



(2) 基礎・基本に迫る問い

教材の冒頭には「考えよう・話し合おう」というステップを設けました。例えば「文字の整え方を確かめよう」という教材の「考えよう・話し合おう」では、「整った読みやすい文字を書くためには、何に気をつけるとよいでしょうか。」と問いかけて

います。

学習事項を受け身で教わって練習するのではなく、「整った読みやすい文字を書く」という“学習する意味”を生徒に気づかせることで、〈主体的に学習に取り組む〉ことを可能にし〈基礎的・基本的な知識及び技能〉の習得をより確実なものとしします。

また、このステップで自分なりに考えて気づいたことを友達と話し合うことで、〈言語活動〉の充実と〈個性を生かす教育の充実〉を図り〈生徒相互の人間関係を深める〉ことができます。

さらに、このステップでの生徒の学習活動の様子から、生徒の実態を評価・把握することができ〈生徒の発達段階を考慮した指導〉が可能になります。

B. 内容上の特色 * 〈 〉内は学習指導要領の「総則」及び「国語科の目標」からの引用です。

(1) 巻頭 -3年間の指導 事項を見通し た「学ぶ態度」 を捉える-

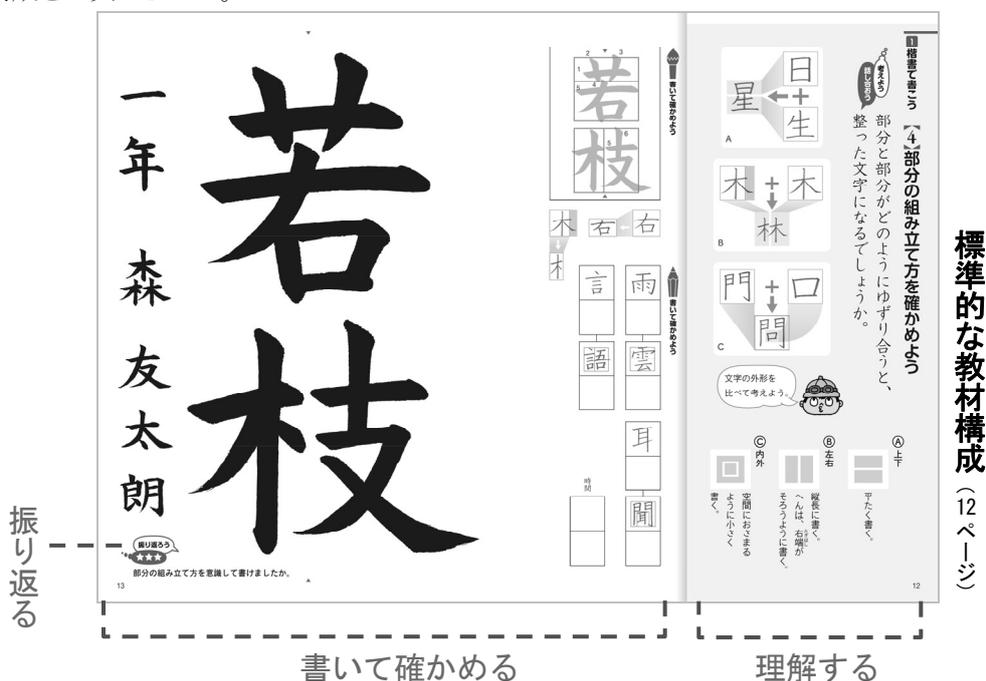
巻頭に「自分の文字や書き方をよりよくするために」というページを設けました。

このページでは、「授業で学んだことを自分のふだんの文字に取り入れていくこと」と、「相手や目的・場面を考えて書く習慣をつけること」とを生徒に促しています。

このように学ぶ態度を示唆することで、〈基礎的・基本的な知識及び技能〉の確実な習得と、国語科の目標である〈伝え合う力〉の向上を生徒に意識づけています。

(2) 教材構成 -学習のめあて を常に意識し て学ぶ-

標準的な教材構成としては、指導事項を「理解すること」、毛筆・硬筆で「書いて確かめること」、さらに学習の「振り返ること」までを見開き2ページで見渡せるように紙面構成を工夫しました。



(2) 行書導入 -意欲をもって 学ぶ-

①行書単元の前には、行書を使って硬筆で書いた歌詞を掲載しました。

歌詞の躍動感とともに、行書の特徴であるリズムやスピード感を生徒自らが感じ取ること、
「行書で書けるようになりたい」という意欲をもてるよう工夫しました。

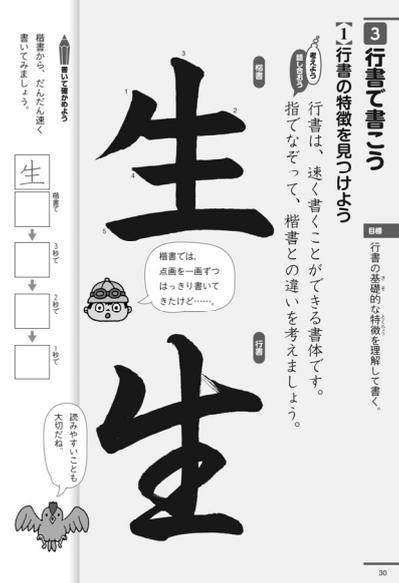
②行書単元の第一教材では、行書の具体的な五つの特徴を学びます。

五つの特徴を学ぶ前に、まずは「生」の字の楷書と行書の例を指でなぞることで、楷書との違いを体感します。楷書との違いを見た目(形状)で理解するのではなく、指でなぞって「速く書けそうだ」と自ら感じることで、行書という新しい書き方を習得する意味を捉

えさせます。



行書単元の前の教材（28ページ）



行書単元第一教材（30ページ）

(3) 書体の
使い分け
の指導
-思考力・想像
力を生かす-

第二学年の指導事項〈目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書く〉に対応する単元では、日常的な場面を例にあげ、生徒が考えやすいように工夫しました。また、楷書と行書の使い分けには絶対的なきまりがない場合が多いことをふまえて、「読み手・目的・書く状況」という観点を示し、例にあげた場面以外でも自分でふさわしい書体を選択できるよう工夫しました。

(4) 効果的に
書く
-伝え合う力を
伸ばす-

第三学年の指導事項〈身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書く〉に対応する単元では、文字の工夫と効果を関連づけて考える活動を用意しました。目的や読み手を意識してはじめて効果的に書くことができるということに気づくよう工夫しました。

2. 対照表

(次ページをご覧ください)

2. 対照表

図書の構成・内容 第一学年		学習指導要領の内容		該当箇所 (ページ)	配当 時数
		ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (書写の学びの方法と目標を理解し、自分の書く文字をよりよくしようという意欲をもつ。)	イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。		
1楷書で 書こう	自分の文字や書き方をよりよくするために			2,3	
	望ましい姿勢と筆記具の持ち方		(望ましい筆記具の持ち方と姿勢について理解する。)	4,5,6	
	[1]文字の整え方を確かめよう		字形を整えて書くためのポイントを理解する。	8	3
	[2]筆使いを確かめよう		楷書の筆使いを理解する。	9	
	[3]点画の組み立て方を確かめよう	「春光」	字形を整えるために、文字の中心や画と画の間隔、画の方向に注意して書く。	10,11	
	[4]部分の組み立て方を確かめよう	「岩枝」	字形を整えるために、文字の上下・左右・内外の組み立てに注意して書く。	12,13	3
	[5]学習のまとめ		筆順の意義をつかみ、字形の整え方を理解して書くとともに、許容の字体・書体についても書くことをとおして理解する。	14,15 15 16,17	
	筆順の原則と意義				
	漢字のさまざまな書き方・活字と手書き文字	「風月」「新緑」			
	[6]仮名の字形と筆使いを確かめよう		字形と筆使いに注意して整った読みやすい仮名を書く。	18,19,20,21	3
平仮名の発生			20,21		
[7]文や文章の整え方を確かめよう	「夏めく空」	文字の大小、字間、配列に注意して、文や文章を整えて書く。	22,23		
[8]学習のまとめ		字形や文字の大きさ、配列に注意して縦書きや横書きで書く。	24,25	1	
横書きの行のそろえ方・数字とアルファベットの書き方			25		
2生活に 生かそう	行事の目標を書こう		文字の大きさや配列を工夫して、楷書で丁寧に書く。	26,27	1
	新しい書体との出会い		(行書が読みやすく速く書くことができる書体であることを理解し、学習への意欲をもつ。)	28,29	
3行書で 書こう	[1]行書の特徴を見つけよう		行書が読みやすく速く書くことができる書体である ことを理解し、漢字の行書の特徴を理解する。	30,31	1
	行書のいろいろな書き方			31	
	[2]連続・丸みを確かめながら書こう	「名作」	漢字の行書の連続や丸みなどの特徴を理解して 書く。	32,33,34,35	2
	[3]点画の変化を確かめながら書こう	「永久」	漢字の行書の点画の変化を理解して書く。	36-37	2
	[4]学習のまとめ		漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書く。	38	1
	文化としての「書く」－年賀状と書き初め			39	
4生活に 生かそう	本を紹介しよう		字形を整え、文字の大きさや配列を工夫して、楷書や行書の書体で丁寧に書く。	40,41	1
	書いたもので交流しよう			42	
	書き初め	「輝く生命」 「日進月歩」	姿勢や執筆に注意して、字形を整え、文字の 大きさや配列を考えて書く。	85-88	2
				計	20

図書の構成・内容 第二学年		学習指導要領の内容		該当箇所 (ページ)	配当 時数
図書の構成・内容	学習指導要領の内容	ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく書くこと。	イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。		
5 行書を使いこなそう	(1) 行書の特徴と筆使いを確かめよう	「再会」	丸み、連続、終筆の変化などの行書の特徴と筆使いを理解して書く。	44,45,46,47	3
	(2) 省略・筆順の変化を確かめながら書こう	「雪花」	点画の省略や筆順の変化などの行書の特徴を理解して書く。	48,49	
	(3) 学習のまとめ		行書の特徴を確かめて書く。	50,51	1
	(4) 行書に調和する仮名の特徴を見つけよう		漢字の行書に調和した仮名の特徴を理解して書く。	52,53,54,55	3
	(5) 文や文章の整え方を確かめよう	「自然を楽しむ」	漢字の行書に調和した仮名の書き方を理解し、文や文章を整えて書く。	56,57	2
	(6) 学習のまとめ		漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方に注意して、縦書きや横書きで読みやすく書く。	58,59	1
6 生活に生かそう	文章全体を速く書くために手紙を書こう		行書の書き方の理解を生かして、読みやすく書く。	59	2
		(1) 生活の場面と書体について考えよう		目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書く。	
7 書体を使い分けよう				62,63,64	2
		(2) 学習のまとめ		身の回りの文字が、目的や必要に応じ、楷書や行書を選んで書かれていることを理解する。	
8 生活に生かそう	座右の銘を書こう		これまでの学習を生かして、目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書く。	66,67	2
	発展 書の名手たち		(書)の美しさを味わう文化や伝統について理解する。	68	
9 効果的に書こう	(1) 身のまわりの文字の工夫を見つけよう	「燃ゆる思い」	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、文字の配置や大きさを考えて書く。	109-112	2
		「大望を抱く」		ことばを選び、これまでの学習を生かして、楷書または行書を選んで書くこと。	
10 生活に生かそう	卒業記念冊子を作ろう 三年間で学んだ書写技能書き初め		目的や必要に応じて、用紙や筆記具、レイアウトを工夫して、効果的に書く。	70,71	4
		「最後まで仲間」	これまでの書写の学びを生かして、効果的に文字を書く。	72,73	
日常生活	① 便箋と封筒の書き方・時候の挨拶など ② 荷物の送り状・のし袋・願書の書き方 ③ 掲示物の書き方 ④ ノート・原稿用紙の書き方		ことばを選び、これまでの学習を生かして、毛筆や硬筆で、楷書または行書を選んで書く。	74,75	3
				76	
文字の変遷・文房四宝 楷書・行書一覧表 自分の文字	① 小学校で学習した漢字 / ② 中学校で学習する漢字			113-116	3
				計	
図書の構成・内容 資料編		学習指導要領の内容 なし		該当箇所 (ページ)	配当 時数
日常の書式				78,79,80,81	
				82	
				83	
				84	
楷書・行書一覧表 自分の文字	① 小学校で学習した漢字 / ② 中学校で学習する漢字			89-92	
				93-108 表3	

編修趣意書 (発展的な学習内容の記述)

受理番号	学校	教科	種目	学年
26-22	中学校	国語科	書写	1-3
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15・三省堂	書写・733	現代の書写一・二・三		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
68	発展 書の名手たち	1	高等学校 芸術科書道 I B鑑賞 イ 見ることを楽しみ、書の美しさと表現効果 を味わい、感じ取ること。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 1)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容